

# 早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学大学院経営管理研究科)

## 2017年度一般入学試験問題 (秋募集)

### 「小論文」

#### 注意事項

1. この試験では、問題冊子のほかに、解答用紙1枚(白色)および下書き用紙1枚(色紙)を配付する。
2. 試験開始の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
3. 問題は、1ページに記載されている。試験開始の指示後、問題冊子に抜けているページがないか、解答用紙および下書き用紙が全てあるかを確認すること。
4. 解答用紙および下書き用紙は書き損じても新しいものを配付しない。
5. 小論文は全ての設問に日本語で解答すること。
6. 解答用紙の所定の欄に氏名、および受験票に記載されている受験番号を正確に記入すること。数字は読みやすいように、はっきり記入すること。
7. 解答用紙への記入にあたっては、設問番号を確認し、間違えないように気をつけること。
8. 筆記用具は黒色または青色のインクのペンまたはボールペンを使用し、解答は解答用紙の所定の欄にはっきりと書くこと。消しゴムで文字を消すことができるインクのボールペンの使用は認める。
9. 修正テープ、修正液の使用は認める。
10. 筆記用具、修正液および修正テープは貸与しない。
11. 下書き用紙(色紙)は自由に使用して構わない。
12. 試験終了後、解答用紙を回収する。問題冊子・下書き用紙は持ち帰ってよい。

問題は裏面に記載

# 早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学大学院経営管理研究科)

## 2017年度一般入学試験問題 (秋募集)

### 「小論文」

次の文章を読み、以下の問に答えなさい。

“Law is to justice, as medicine is to health, as business is to \_\_\_\_\_.” We have asked business students and colleagues alike to fill in the blank above. The first reaction is always one of awkward silence. People are surprised that the answer does not roll off the lips. There is always a sense in the room that we should know the answer and yet, we do not. Then the answers come. A cluster of people will focus on profit, money, and wealth. Others, more expansively, will talk about value creation and prosperity. Still others will focus on the likes of coordination, exchange, production, and innovation. Some will take a decidedly macro perspective and speak about commerce, the economy, collective well-being, and society. And finally, some will shift gears and focus not on wealth but greed, not prosperity but power, not well-being but oppression. <snip> This exercise points out three challenges when we think about the nature of business.

(日本語訳) 「法は正義のために、医療は健康のために、そしてビジネスは \_\_\_\_\_ のために。」我々はビジネススクールの学生や同僚に、上記の空白に、あなたなら何を埋めるかを尋ねることがある。この問いを訊かれた者の最初のリアクションは、決まって気まずい「沈黙」である。彼らはこの問いに驚き、答えがなかなか口から出てこない。この問いへの答えは、常に我々が持つておくべきもので、しかし実際には我々は答えを持っていないからだ。しかし、やがて彼らの口から、徐々に答えが出てくる。ある人は「利益、金銭、富のため」と主張する。他の人は、より広義に「価値の創造・繁栄のため」と述べる。「調整、交換、生産、イノベーションのため」と答える者もいる。より大きな視野から「商業、経済、皆の幸福、そして社会のため」と答える者もいる。そして遂には、「富」ではなく「欲」のため、「繁栄」ではなく「権力」のため、幸福ではなく「他者を制圧するため」と答える者さえ出てくる。(中略) 「ビジネスの本質とは何か」を考える時、このエクササイズは、我々に三つの課題を課すのだ。 Donaldson, T. & Walsh, J. 2015. Toward a theory of business. *Research in Organizational Behavior*, vol.35: 181-207. 日本語は出題者の意識。

以上は、米ペンシルバニア大学と米ミシガン大学のビジネススクールの教授が書いた論文の一節です。上記の文章を基に、以下の問に答えてください。

問題1. 特定の業界の企業(あなたの所属している企業でなくても構いません)を示した上で、あなたがその企業の経営者なら、上記の文章の空欄にどのような言葉を入れますか。なぜ、それが重要なのかを、あなたの価値観を明らかにした上で、選んだ企業の現状・将来像に即して論理的に説明してください。(700字程度)

問題2. あなたが問1の答えを提示したとき、その答えを、あなたが問1で選んだ会社を取り巻く全てのステークホルダーが受け入るとは限りません。具体的に、どのようなステークホルダーがあなたの問いに反論すると思いますか。彼ら・彼女らの立場に立って、説明してください。また、その反対するステークホルダーに対して、あなたはどのような論理で説得をしますか。選んだ企業の現状・将来像に即して論理的に説明してください。(700字程度)

早稲田大学大学院経営管理研究科

17年度入学試験（秋募集）

[補足]

ページ1の問題1では、文章の空欄にどのような言葉を入れますかという問いが含まれています。回答の先頭に日本語1語でここに入れる言葉を記してください。

氏名

受験番号

※上記の所定欄以外に受験番号・氏名を書かないこと

問題

1

早稲田大学ビジネススクール  
(早稲田大学大学院経営管理研究科)  
2017年度一般入試/事業承継者入試/企業派遣入試  
(秋募集) 小論文 解答用紙

(採点欄)

[Blank box for grading]

Handwriting lines for question 1, with numerical markers at 100, 200, 300, 400, 500, 600, and 700.

問題

2

Handwriting lines for question 2, with numerical markers at 100, 200, 300, 400, 500, 600, and 700.